

認知症高齢者グループホーム四季の花

(別紙6)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年10月16日

【評価実施概要】

事業所番号	0991300013		
法人名	社会福祉法人同愛会		
事業所名	認知症高齢者グループホーム四季の花		
所在地	栃木県那須塩原市一区町281-71 (電話) 0287-36-8995		
評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成21年9月9日	評価確定日	平成21年10月16日

【情報提供票より】(平成21年8月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年6月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9人
職員数	7人	常勤7人(うち兼務2人), 常勤換算7人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 1階建ての1階部分		
------	-----------------	--	--

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000円	その他の経費(月額)	・水光熱費—10,000円 ・理美容代—実費 ・おむつ代—実費	
敷金	無			
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無	—	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,600円	

(4) 利用者の概要(平成21年8月26日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名	
要介護1		名	要介護2		3名	
要介護3		4名	要介護4		1名	
要介護5		1名	要支援2		名	
年齢	平均	84歳	最低	81歳	最高	91歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	那須中央病院
---------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、JRの駅から車で5分ほどの住宅地の中にあり、近くには小学校や保育園があり、子ども達の声が聞こえてくる環境である。近所づきあいも構築されてきており、おすそ分けをする関係や行き来する関係ができています。入居者の「一人ひとりの生活スタイルを大切」にし、「うるおいのある生活」をおくれることを基本理念としており、起床時間、テレビ観賞の時間、入浴の時間など入居者の希望を出来る限り尊重して実施している。また、入居者家族の家へできるだけ訪問し、率直なホームへの要望等を聞くようにしたり、広報誌等により入居者の生活ぶりが家族にも感じられるよう配慮されている。職員は、入居者にホームが自分の家であると感じてもらえるように、喜怒哀楽を共にしながら入居者のペースで過ごしている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	月1回必ず職員会議を実施しており、前回の外部評価についても話し合いを行った。全職員から意見を出し合う他、情報の共有を大切にしている。管理者は、職員が指示を待つのではなく、自分で考えて行動できる職員となるよう心掛けている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は、職員全員で話し合いを行い、それらの意見を聞いて管理者がまとめた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議のメンバーは、入居者、入居者家族、民生委員、市職員等となっている。多数の民生委員が参加できることを考慮し、開催日時を民生委員の会議終了後に行っている。会議では、ホームの行事、利用者の状況、民生委員が受け持っている事案等を議題としている。民生委員より、一人暮らしのお年寄りの情報を教えてもらい、訪問し関係構築を図る等の成果をあげている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ホームの苦情相談窓口や市の苦情受付窓口を重要事項説明書に明記し、苦情ポストも設置している。苦情や要望は直接職員に伝えられることが多く、苦情や要望等を職員に対して気軽に言える関係ができています。入居者は不満や要望を家族に話す場合が多いので、家族からも意見を聞くように工夫している。面談時に意見を聞くことを継続しながらも、ニーズに応じて、今後はメールで要望や意見を出してもらえるよう検討している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	開所当初から近隣住民との関係作りを意識しており、散歩の際に挨拶を交わしたり、世間話をするよう心掛けている。そのため、現在では近所の方より畑で採れた野菜等をもらったり、お返しとしてホームからおかずのおすそ分け等を行っている。さらに、近隣の小学生が時々訪問してくれたり、入居者がホームから離れた場所に行ってしまった場合には、近所の人から知らせてくれたりなど地域との繋がりは向上している。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者の「一人ひとりの生活スタイルを大切」にし、「うるおいのある生活」になることを法人の基本理念としている。入居者それぞれの起床時間、テレビ観賞の時間、入浴の時間などは本人の希望を尊重しており、「自分の家」と感じられるよう配慮している。	○	職員会議や日々の職員間の話し合い等を活用しながら、法人の基本理念を実践していき、更に利用者の利便性の向上を目指して行くことを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月1回の職員会議を活用し、理念の振り返り等を行っている。会議では全職員が発言できるよう管理者が配慮し、一つ一つの意見を大切にしている。管理者としては、職員が指示を受けて行動するのではなく、理念は共有しながらも、より良い理念の実践に向けて取り組んでいけるよう、自ら考える職員となるよう心がけている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	開所当初から近隣住民との関係作りを意識しており、散歩の際に挨拶を交わしたり、世間話をするよう心掛けている。そのため、現在では近所の方より畑で採れた野菜等をもらったり、お返しとしてホームからおかずのおすそ分け等を行っている。さらに、近隣の小学生が時々訪問してくれたり、入居者がホームから離れた場所に行ってしまった場合には、近所の人から教えてくれたりなど地域との繋がりは向上している。	○	ホームとしてなお一層、地域の一員となれるよう、地域の夏祭りを見に行ったり、近隣の保育所等との交流を企画するなどして、更に地域との交流が深まることを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	月1回実施している職員会議等で前回の外部評価を振り返りながら意見の交換を行った。管理者は、一方向的な指示にならないよう心掛けており、職員の意見を尊重しながらも出来ている部分を継続していけるよう声を掛けを行っている。また、今回の自己評価については職員全員で話し合い、管理者がまとめている。		

認知症高齢者グループホーム四季の花

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議のメンバーは、入居者、入居者家族、民生委員、市職員等となっている。多数の民生委員が参加できることを考慮し、開催日時を民生委員の会議終了後に行っている。会議では、ホームの行事、利用者の状況、民生委員が受け持っている事案等を議題としている。民生委員より、一人暮らしのお年寄りの情報を教えてもらい、訪問し関係構築を図る等の成果をあげている。	○	運営推進会議の名称をやわらかい表現にしたり、会議の内容を工夫したり、地元の警察官や保育所等の職員に参加を呼びかけるなど運営推進会議のあり方について試行錯誤している段階である。ホームとしては、2ヶ月に1回の開催を行いたいと考えており、更に運営推進会議が充実したものとなるよう期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市職員には、後見人の問題やホームとして不安な内容について相談を行い指導してもらっている。ホームとしても市の連絡協議会やケアマネジャーの連絡協議会に積極的に参加している他、市担当職員が時々ホームを訪問するなど連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホームの広報誌には、必ず入居者の写真をカラー印刷で掲載し、入居者の生活の様子を伝えるよう配慮しており、家族にも好評である。家族への入居者の生活状況や健康面についての報告は、必ず月1回は行い、出来るだけ訪問して報告できるよう工夫している。また、入居者個人毎の写真アルバムを作成し、ホームにいつでも見られるようにしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの苦情相談窓口や市の苦情受付窓口を重要事項説明書に明記し、苦情ポストも設置している。苦情や要望は直接職員に伝えられることが多く、苦情や要望等を職員に対して気軽に言える関係ができています。入居者は不満や要望を家族に話す場合も多いので、家族からも意見を聞くように工夫している。面談時に意見を聞くことを継続しながらも、ニーズに応じて、今後はメールでも要望や意見を出してもらえよう検討している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が異動や退職をした場合は、入居者が混乱したり寂しい思いをしないよう、「異動しましたよ」「勉強しに行くんですよ」などと伝えるように配慮している。また、家族には異動や退職については事実を伝えるようにしている他、新任職員に関しては、家族も不安に感じるため、必ず自己紹介等の挨拶を行うようにしている。		

認知症高齢者グループホーム四季の花

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新任職員には、2週間のプログラムで先輩職員がついて指導する他、夜勤時の指導も行っている。また、職員が外部研修を受講した場合は、管理者に口頭報告を行い、その後、職員会議で職員全員に伝達するようにしている。更に管理者が法人内の研修（リスクマネジメント等）を受講した場合も職員全員に伝達し、情報の共有を図っている。	○	今年度は、ケアマネジャーが新しくなった関係で受講機会に偏りが出てしまっている。来年度以降は、研修の機会を増やし、全職員が均等に参加できるよう工夫したいと管理者は考えていることから、実施できるよう期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年3回程度開催される市の介護サービス事業者連絡協議会には、管理者とケアマネジャーが参加している。また、地域のケアマネジャーの勉強会や交流会についても参加を行っている。	○	今後は、地域の他の同業事業者との交流の場を設け、職員間の相互訪問や情報交換等のネットワーク作りに期待したい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	当ホームへの入居希望者には、隣接している小規模多機能型施設を利用してもらい、職員やホームの入居者と交流し馴染めるよう配慮している。イベントも合同で行っているため、自然な形で行き来できている。また、ホームの説明をする際に家具の持ち込みが自由であることや外出もできて自由に生活できること等を説明し安心してもらい、見学についても家族と一緒にしてもらい不安の解消ができるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者と喜怒哀楽を共有しながら時間を過ごすようにしている。入居者より死去している夫に会いたいと話掛けられれば、その気持ちを受け止め思い出話をしたり、夕焼けをみながら童謡を一緒に歌って自然の美しさに感動したりしている。また、人生の先輩として、食事の作り方や洗濯物の干し方やたたみ方を教えてもらっている。		

認知症高齢者グループホーム四季の花

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者とのなじみの関係の中から職員間での意見交換を通して、入居者一人ひとりの思いや意向の把握に努め、独自の個別介護マニュアルを作成している。食事の飲み込み状況などを把握し、誤嚥を防ぐために刻んだ食事にしてみた結果、改善した内容を記入したり、さらに工夫した点やその結果などを細かく記入している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画については、管理者とケアマネジャーとが話し合い、その結果を職員会議の場で協議したうえで作成している。また、ケアマネジャー自身も、入居者と日々接している職員の意見を参考にして、入居者本人の意向を尊重した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居者自身が見直しを希望する場合は職員でなく家族に相談する方もいるので、家族等との面会の機会を利用して本人と家族の意見を取り入れるようにしている。また、見直しの期間は半年が原則だが、個別に対応するようにし、変更の必要性があれば即座に対応している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外出する際に、家族に予め場所を伝えておくことで、現地で家族と一緒に行動出来る様に工夫している。また、入居者の希望に応じて馴染みの美容室へ行ったり、ホームのシャンプーの種類も好みの物を個人で使えるよう柔軟に対応している。また、入居者の季節の衣類交換も要望があれば家族に代わって対応している。		

認知症高齢者グループホーム四季の花

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医はホーム協力医療機関の主治医に変える入居者が多いが、医療機関を継続通院する場合においても、通院記録、経過観察記録等をきちんと記録し対応している。また、救急の場合にも適切に医療的な情報が伝えられるように経過観察記録は日頃から必ず書くようにしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族には、入居者が重度化した場合でも引き続き受け入れること、また、一時的に入院し、その後退院した場合でも受け入れる事を伝え安心してもらっている。また、終末期までの対応を希望している利用者があり、ホームとしても協力医療機関や訪問看護等と連携しながら対応する予定である。	○	終末期の入居についても希望者がおり、ホームとしても対応する方針であることから、必要な関係機関や社会資源の確保に今後も務めていくことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	入居者の誇りやプライバシーを損ねないように、食事の時、あらかじめ魚の骨を取りたべやすくする事で入居者のプライドを傷つけないよう配慮したり、トイレに暖簾をかけたりしている。また、安否確認のため部屋のドアに小窓があるが、部屋から暖簾をかけることも可能としている。なお、個人記録等は事務室で保管し、プライバシーへの配慮もしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者本人のしたい事をしてもらう事を基本としている。食事やお茶の時間は決めているがその他は自由であり、共有スペースの和室やソファなどそれぞれお気に入りの場所があり、そこを利用する方が多い。秋は外にテーブルを出してお茶会を開いたりしている。飲み物は、入居者の希望のものを出すようにしている。		

認知症高齢者グループホーム四季の花

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	家庭と同じように料理の音や匂い、調理の過程が感じられるようにオープンキッチンにしている。また、食事の内容は高齢者向けの日本食の献立ばかりでなく、ハンバーグ、キムチチャーハン等の普段家庭で出されるものを提供している。入居者には好き嫌いがあるので、嫌いなものを事前に抜くことで嫌な思いをしないように配慮している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	原則として本人の希望する時間に入浴しているが、入居者の殆どは午後1時～4時半頃に入浴を行っている。一日おきに半分の入居者が入浴している。入浴の際は危険が無いようにマンツーマンで行っており入居者が自室に戻るまで目を配っている。また、寝たきりの入居者も職員が抱えることで入浴できるようにしている。入浴剤やゆず湯、菖蒲湯なども利用し入浴を楽しめるよう工夫している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物干し・おしぼり配り、草むしり、水やり、野菜栽培など出来る範囲で行ってもらっているが、高齢や重度化に伴い、役割や楽しみ事等を行うことが困難な入居者が増えている現状がある。季節の行事や誕生日会は雰囲気作りも大切にし、お祭りの提灯を飾ったり太鼓の音を鳴らしたりしている。また、誕生会を夫婦一緒にお祝いできるように企画したところ、とても喜んでくれた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	月1回程度、法人のマイクロバスを利用して外出し、地元の観光スポットを季節に応じて楽しんでいる。入居者が楽しめそうな所を職員が外出先の情報を収集するようにしている。外食についても好きな物を味わえるよう、入居者の希望先に応じて、麺類班やフライドチキン班等にグループ分けをしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外は原則として鍵は掛けず、日中は玄関も窓も開けたままにしておき、職員の見守りのもと自由に外出できる環境となっている。入居者が一人で外出した場合、職員も側について入居者と一緒に会話をしながら散歩を楽しみ、自然にホームに帰ってこれるようにしている。また、万が一、単独で外出しても近所の方が教えてくれることもある。		

認知症高齢者グループホーム四季の花

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	今年度は、総合避難訓練の実施を予定しており、交流のある近隣住民にも訓練実施を連絡する予定である。有事の際のマニュアルを作成し、職員間での共通認識や情報の共有化により、地震の際にも慌てず誘導することができた。また、ホームの建物は簡単に外に出られる構造になっている。	○	今後は、夜間時を想定した訓練を実施したり、近隣の住民にも訓練に加わってもらったり、運営推進会議の構成員に協力してもらおう等を検討し、更に災害対策への取り組みを行っていくことに期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	基本的に食べ物の買い置きはせず、冷蔵庫の中身は定期的に整理し、新鮮な食材を使用するようにしている。食事の摂取量は日誌に記録してあるほか、個別の健康記録に水分の摂取状況も記録している。また、入居者の健康状態や好みに応じて水分補給としてのゼリーや栄養補給食品等も利用している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭に近い環境を第一とし、全体的に飾り物や貼り物を控える代わりに、さりげなく花を飾ったり、お祭りの提灯など季節感の感じられる物を飾ったりしている。また、テーブルの配置なども見た目だけでなく人間関係などを配慮し、居心地よく過ごせるように工夫している。和室にはソファが置かれており、入居者のお気に入りの場所となっている。また、換気にも気をくばっており、不快な臭いなどは無く快適な空間づくりがなされていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人の安心感のためにも使い慣れたタンスやベット、位牌、写真、絵画などを持ってきてもらっている。また、和室が好きな入居者は薄い畳を利用している。入居者本人の使い慣れたもの等により、居心地良く過ごすことができる居室づくりに配慮されている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。